

# マンガ・アニメキャラクターから考える 神話的美少年と性別越境性

## 要旨

本卒論は、マンガ・アニメキャラクターの性別越境性が BL 文化や日本における同性愛嫌悪に与えた影響の分析を目的とした。本卒論では、小説や芸術作品などで「美の象徴」として語られるような美少年を「神話的美少年」と定義し、この存在を性別越境性と捉え、現実離れした美しさを持つという意味合いで用いる。

そこで本卒論では、まず「神話的美少年」の細かい定義とどのように扱われていたか、ドイツの作家であるトーマス・マンによる中編小説『ヴェニスに死す』を取り上げ、次に日本のマンガ作品である池田理代子著の『オルフェウスの窓』など実例を挙げるとともに、日本における歴史とマンガ・アニメ文化の変遷を同性愛の観点から調査した。

「BL (ボーイズ・ラブ)」文化は性的マイノリティへの直接的理解では無いが、日本におけるマンガ・アニメキャラの性別越境性や「神話的美少年」という存在が、同性愛への理解とまではいかななくても同性愛の容認、そして BL 文化の地ならしとしての役割を果たしたのではないだろうか。